

**ストップ・リニア！訴訟控訴審
第4回口頭弁論関連資料**

リニア 岐阜県瑞浪市水涸れ準備書面要旨

2025年1月 原告代理人 岡本浩明

本準備書面では、瑞浪市大湫町の日吉トンネル南垣外工区における井戸水等の減水問題に関する岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会における議論状況などについて、第6回以降の地盤委員会の議論に基づき、主張する。なお、地盤委員会はなお継続中である。

1 令和6年9月25日岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会（第6回）

この日の委員会では、水涸れ被害拡大防止（止水対策）、影響範囲の把握・原因究明（地盤沈下）、応急対策、の各議題が検討された。

まず、止水対策については、この時点でカバーロックという内側の注入をしているところ、本注入をやるということは難しい、止水対策としての代替案も白紙の状態、ということであった（議事録3～4頁）。なお、カバーロックとは、本注入による薬液がトンネル坑内へ流入することを防止するために実施するものであって、そもそも止水目的のためのものではない。

地盤沈下の問題については、家屋調査を始めた段階ということであった。

応急対策については、深井戸を掘っていくにあたり調査をする、ということであった。

2 令和6年10月29日岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会（第7回）

この日も、第6回と同様、水涸れ被害拡大防止（止水対策）、影響範囲の把握・原因究明（地盤沈下）、応急対策の3つの議題について検討がなされた。

まず、止水対策については、JR東海から、カバーロックを行うことによって湧水量を低減させられているという報告がなされた。ただ、いつころにどの程度まで低減させられるかという目途はまだたっていないということであった。

これに対して、委員長から、JR東海に対し、「こちらの被害拡大防止に関しましては、やはり湧水を減水するということが、地下水位の低下抑制・回復につながることを期待しているので、注入に関しては迅速な対応を考えてください。これは以前からもお話していた本注入に入れない状況なので、このま

ま注入を続けるのか否かの判断に進まないといけません。それで前回も申し上げたと思いますが、代替案をどう考えるか、ポイントは減水することの代替案ではなくて、地下水位低下抑制・回復をどうするかです。それに対して、色々な方法・アプローチが考えられるかと思います。さらには実際に生活されている方への支障について、そこに対する一つの代替案があるかもしれませんが、まずは地下水位をターゲットにしてほしいので、水位低下抑制・回復に向けた方法として、減水だけなのか、ほかにあるのか、そこを考えていただかないといけないと思います。今の話を聞くと、多分注入以外なかなか判断が出てくる可能性がないので、違う考え方の発想で、事例がないことにもチャレンジすることも必要になるかもしれません。そういったことを含めて考えていくことが代替案になろうかと思います。それで案をいくつか立てながら可能性を探っていくことも考えていくということも大事です。何もしないということは無いと思います。注入に代わることも考えていただければと思います。いずれにしても迅速な対応をお願いしたいと思います。放置しておく理由は何もないので、カバーロックの効果がどう表れるか見極めながら、次の手を考えてほしいと思います。そうした迅速な対応をお願いしたいと思います。」という厳しい批判がなされた（議事録5～6頁）。

次に、地盤沈下に関しては、J R東海は、原因についてまだ分析できていないと報告した。これに対し、専門調査員が、仮説として、堆積物の厚さに比例して沈下量が考えられるのではないかと、したがって、堆積物の厚さを早く把握し、どれくらいまで沈下範囲が速度に応じて広がるのかというのを推測するのがいいのではないかと提案した（議事録6～7頁）。これを受けて、委員長は、まとめとして、地盤沈下の問題はおそらく地下水位との関連性があるであろうから、今後調査分析して原因究明とともに今後の沈下の予測もしていく必要があるとした（議事録17頁）。

3 令和6年11月27日岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会（第8回）

この日の委員会には瑞浪市長が参加し、状況を報告したうえで、J R東海に対し、速やかに地盤沈下を止めてほしい、速やかに地下水位の低下を止めてほしい、速やかに今後の見通しを示してほしい、という3点の要望を出した（議事録3～4頁）。

止水対策について、委員長から検討状況を質問されたのに対し、J R東海は、本注入するかどうか、本注入以外の代替案があるかどうかについて、何ら具体的な検討状況を提示できなかった（議事録6～7頁）。

4 小括～湧水止まらず、地盤沈下は進む。JR東海の環境影響評価のずさんさ明らか

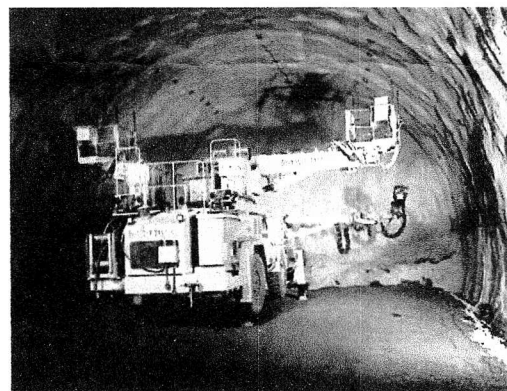
以上のように、瑞浪市大湫町の日吉トンネル南垣外工区における井戸水等の減水問題は、2024年8月から地盤沈下という、さらなる深刻な被害を引き起こした。JR東海は、カバーロックをしているが、湧水は全く止まっていない。委員会の議論において、委員から、地盤沈下は水位低下から3ヶ月ほど遅れて影響が出ているのではないかと、いう指摘もあり、水位低下が止まらない以上、今後も地盤沈下は続くおそれがある。委員長からは、JR東海に対し、スピード感をもって取り組み、早急に見通しを示すよう再三求められているにもかかわらず、11月下旬に至っても、止水すらできていない状況である。

このような経過からしても、JR東海の行った環境影響評価がいかにずさんなものであったかは明らかである。

以上



出典：岐阜新聞



リニア日吉トンネル
出典：日刊建設工業新聞

本資料は第4回口頭弁論として原告側傍聴者を対象に作成したものです。

ストップ・リニア！訴訟事務局